

# 発達障がい支援に特化した生活介護の 取り組みについて

大阪府障害者福祉事業団

地域生活総合支援センターあい  
生活介護支援員 前田 友美

発達障がい者支援委員会  
委員 紀平 亜希

- 1 発達障がい支援に特化した生活介護の取り組みについて
- 2 事業団におけるコンサルテーションシステムについて

# 1 発達障がい支援に特化した 生活介護の取り組みについて

# あいの生活介護の展開

あいの設立はH23年 今年で5年目

- H23年(1年目)

合同で活動を提供

利用者40人を支援員13人で支援

- H24年～H26年(2年目～4年目)

利用者一人ひとりのニーズに合わせて取り組む

4グループでの活動提供

コスモスG ひまわりG チューリップG たんぽぽG

各グループ利用者約10人を支援員3人で支援

## 生活介護のグループの再編成

- 平成26年度 4グループ

コスモスG ひまわりG チューリップG たんぽぽG



- 平成27年度 活動に特化した3グループ


コスモスG 生産活動支援(農園・園芸) 17人

チューリップG 高齢,高介護者のリハビリ支援 20人

たんぽぽG 発達障がい者支援 6人

## たんぽぽグループ(自閉症・発達障がい者)

- 意志の疎通が難しい
- 活動内容が乏しい
- 静かな環境



関わりや支援が  
難しい

## 〈事例〉 Aさんの紹介

たんぽぽグループに通所  
支援学校を卒業 19歳男性

特性 言葉が話せない。とてもこだわりが強い。雑音や大勢の場が苦手。  
体が大きく、力が強い。

様子 嬉しい時は笑い声を上げて手を叩いて、大きく飛び跳ねる。  
体を動かす事が好き。職員と一緒に遊ぶのが好き。  
怒ると自分の手の甲を強く噛む自傷行為や支援員へのつねったり  
噛む行為がある。  
パニックになると自傷し泣き続ける。しかし30分程すると笑い始め、  
落ち着きを取り戻す。  
意思の疎通が上手く図れない為、苛立ちやパニックになりつねる、  
噛む等の対応に追われる。





## 課題となる行動 ①

- 行動

公園へ向かう道のりで、怒り始める。

目的地に向かう途中でウーと怒り始め、

自傷行為や支援員を噛むパニックが起り、泣き出す。

目的地に着き、ブランコを楽しむと機嫌が良くなる。

- 疑問と課題

どの公園にも必ず好きなブランコがあるのに  
なぜ向かう道のりで怒るのか？

## 課題となる行動 ②

### ・行動

苦手な雑音には強く目をつむり、声を荒立てる。

特定の利用者の声に対しては過敏に反応し、

壁を叩いたり自傷行為が始まる。

エスカレーターすると支援員へ気持ちをぶつける行為も見られる。

### ・疑問と課題

声が聞こえだす方向を気にしているので見えない方がいいのでは？

音を遮る為のイヤーマフを利用したいが、被り物が苦手で難しい。

## 課題となる行動 ③

- 行動

家族の意見として「初秋になると、不安定な様子が見られる。」グループ内でも、1日中部屋とトイレの往復が続く。(周りの利用者が落ち着けない状態になる。)  
トイレで手を洗うことができず、衛生面での配慮ができない。

- 疑問と課題

何か集中して取り組めることはないか？

定期的なトイレ誘導をするにはどうしたら良いか？

グループ内ではAさんの行動をきっかけとして  
様々な問題が他の利用者にも連鎖し支援に悩む・・・

- 他の利用者の自傷行為、粗暴行為がみられるようになる。
- グループが落ち着いて活動できない状況となり緊張し、精神的に張り詰める。
- パニックでAさん自身の自傷行為による傷が増える等、環境改善が必要と感じるが方法がわからない。

8月よりコンサルタントが来所

特性理解の研修を受講したり、  
Aさんの行動の見立てを共有

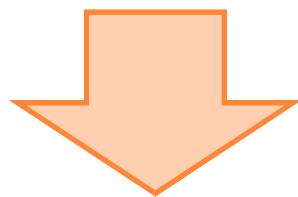
とにかくやってみよう！  
構造化の取り組みがはじまる

## あいで取り組んだこと

- 月に1回のコンサルテーション日に向けて、取り組みたい事を事前に話し合う。
- Aさんの様々な行動パターンについて相談。
- 何もしない時間をなくし、場面に変化を作る。
- 評価セッションを使ってAさんの適正を学び、自立課題を作成。
- 支援の方向性が見え、他の利用者にも個別プログラムを作成。
- Aさんに変化が見え始め、コミュニケーションの図り方を探る。
- 発達障がいに関わる構造化の理解が進み、視覚支援を取り入れた。

## 場面①

公園へ向かう道のりで怒り始める。  
大好きなブランコに乗った後は、怒る事なく上機嫌になる・・・



仮説： 行先がわからないのでは？

## 見通し(構造化・視覚支援の取り組み)として

- トラジッションコーナーを作り、大きなパネルサイズでブランコの写真を用意。



- 出発前には事前に目的地のブランコのパネルを見せる。



- 散歩用のリュックを用意し、毎日リュックを背負ってもらう。

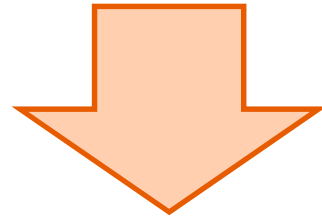


散歩アイテムのリュックを  
背負って歩くAさん



## 場面 ②

特定の利用者の騒ぐ声に怒り出す・・



仮説: 感覚の過敏性があるのでは？

## 環境調整 (聴覚過敏に対する取り組み)として

- 童謡が流れる音楽プレイヤーとヘッドフォンを用意すると受け入れた。
- ↓
- パーテーションでAさんのブースを作り、視覚的にも落ち着ける環境を提供した。
- ↓
- 声への不穏な状況が改善した。  
音楽プレイヤーで童謡を聴いて、余暇時間の過ごし方として定着した。



課題ボックス

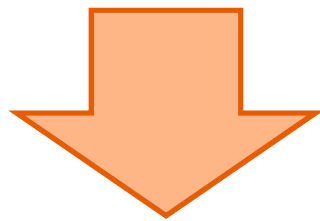
かたづけ  
ボックス

童謡を聴きながら笑顔を見せるAさん



場面③

トイレへ頻繁に向かう・・・



仮説：空き時間をどう過ごせばいい  
のかわからないのでは？

## 活動(余暇時間の過ごし方)として

- 3段ボックスを利用して、Aさんが達成可能な自立課題を用意。  
↓
- 自立課題に取り組むことで、集中する時間が増えた。  
↓
- 課題の最後にトイレの写真パネルを置くことで見通しができ、定期的なトイレ誘導ができた。  
↓
- 定期的なトイレ誘導の際、石鹸を使用して手洗いを行い、衛生面にも配慮ができるようになった。

## ペグ挿し



## ネジの組み立て







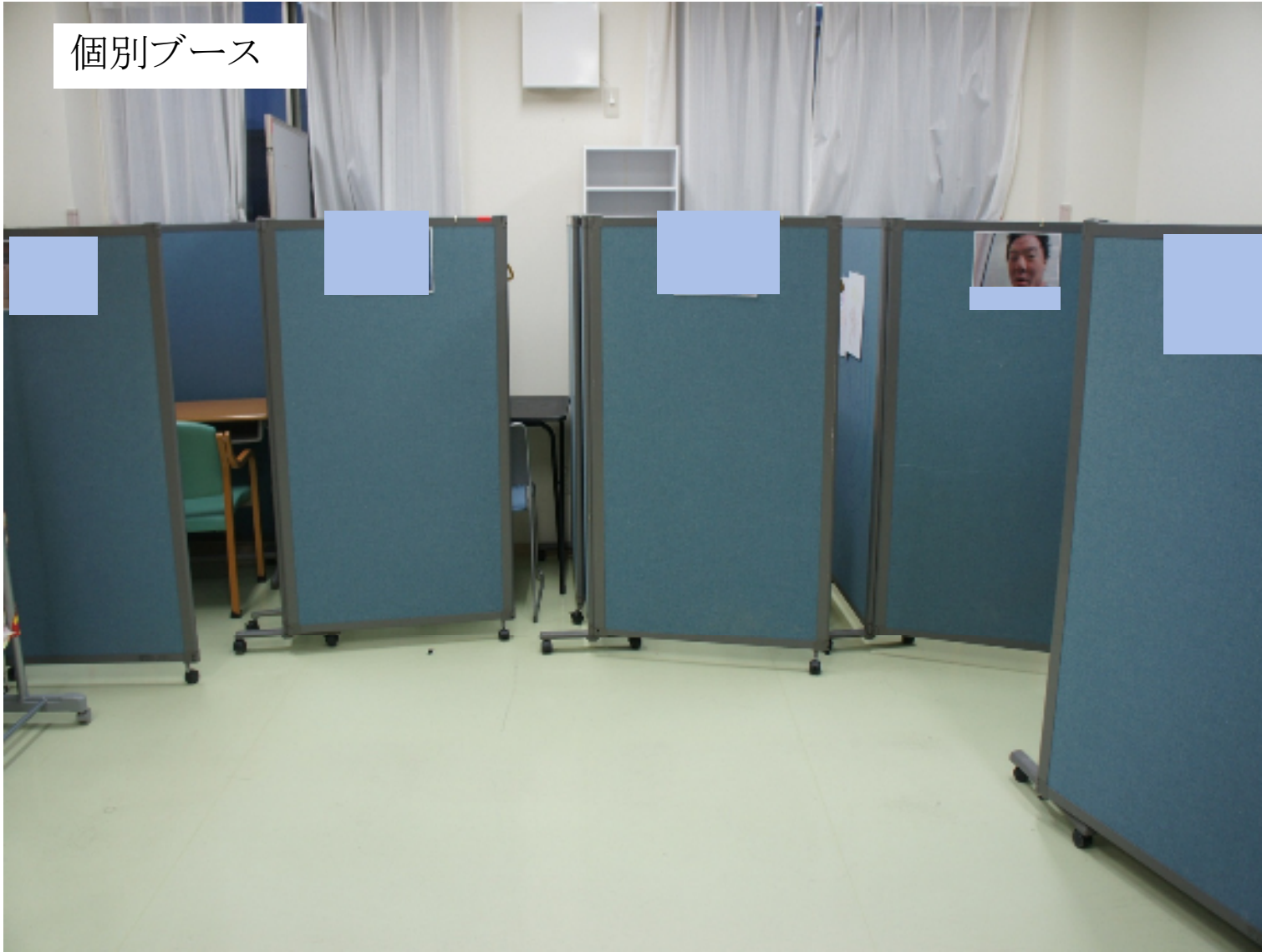
課題ボックス

トイレパネル



清潔を保てました

個別ブース





休憩、食事スペース

# スケジュール

以前



現在





スケジュール



さんぽ



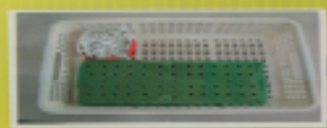
きゅうけい



おひるごはん



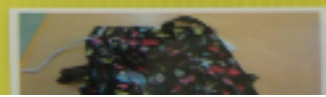
たいそう



じりつかだい



じゅーす



かえります

午前



午後





## まとめ

コンサルテーションを通して  
一步一步チャレンジする取り組みが、この結果に  
つながったと思います。

障がい特性と気持ちの理解をすることでよりよい環境が  
提供できること、利用者の安定につながる支援の在り方  
を学びました。

## 2 事業団における コンサルテーションシステムについて

# 事業団における コンサルテーションシステムについて

- 専門分野別委員会  
(就労支援／被虐待児支援／老人介護／高次脳機能／生活介護／音楽／相談支援／AAC／地域生活支援／医療専門職／発達障がい児者支援委員会)

- 発達障がい者支援委員会 (すぎのき寮・しいのき寮・すくよか)



事業団内各事業所

特性理解を深めるための研修の実施  
取り組みに対する助言・ノウハウの伝達

# コンサルテーションを利用した取り組み

## あいで取り組んだこと

P

- ・月に1回のコンサルテーション日に向けて、取り組みたい事を事前に話し合い、有効な時間を設けた。

D

- ・Aさんの様々な行動パターンについて相談した。
- ・何もしない時間をなくし、場面に変化を作るようにした。
- ・評価セッションを使って特性を知り、Aさんが得意なもの、自信をもって取り組める課題を作成した。

C

- ・支援の方向性が見えだし、他の利用者にも個別プログラムを作り始めた。

A

- ・Aさんに変化が見え始め、コミュニケーションの図り方を探った。
- ・発達障がいに関わる構造化の理解が進み、視覚支援を取り入れた。

## コンサルタントの関わり

- ・年間計画の作成

- ・所内研修にて特性の講義
- ・自閉症eサービスの評価セッションキットを使ってアセスメントを行った

- ・Aさんの取り組みに対して助言をした
- ・グループ内の他の方への評価セッションに同席した

- ・次年度以降の計画を共有した

## あいに対する今後の期待

- コミュニケーションツールの充実
- 評価セッションキットを活用し、一人ひとりの結果に基づいた作業内容の提供
- 長期的な目標に基づいた課題のステップアップ

ご清聴ありがとうございました

